



# ガイドXPress Tags 2016に

## 目次

<b>XPress Tagの理解</b> .....	<b>4</b>
タグ付きテキストの取り込み.....	4
別アプリケーションでタグ付きテキストを生成する.....	4
XPress Tagの一般情報.....	5
<b>文字書式と段落書式</b> .....	<b>6</b>
<b>文字設定</b> .....	<b>6</b>
言語.....	7
ルビ文字.....	8
縦組み中の文字回転.....	9
フォントセット.....	9
OpenType属性.....	10
<b>段落設定</b> .....	<b>12</b>
その他の属性.....	14
スタイルのオン/オフ.....	15
スタイルシートの書式に戻す.....	15
<b>スタイルシート</b> .....	<b>16</b>
スタイルシートの定義.....	16
スタイルシートの適用.....	16
段落スタイルシートの適用.....	17
文字スタイルシートの適用.....	17
スタイルシート用の追加XPress Tag.....	17
<b>カラー</b> .....	<b>19</b>
カスタムカラーの定義.....	19
カスタムカラー定義の詳細.....	19
カスタムカラーの適用.....	20
<b>特殊キャラクタ</b> .....	<b>21</b>
エンコーディング.....	21
エスケープキャラクタ.....	21
その他の特殊キャラクタ.....	22
ASCIIコード.....	22
<b>索引</b> .....	<b>24</b>
索引用のテキストをマーキングする.....	24
索引タグ情報の指定.....	24

法律上の注記.....26

# XPress Tagの理解

XPress Tags Filter XTensions®ソフトウェアを利用することにより、段落属性や文字属性があらかじめ適用されたテキストをプレーンなテキストファイルからQuarkXPress®レイアウトに取り込んだり、段落属性や文字属性が適用されたテキストをQuarkXPressレイアウトからプレーンなテキストファイルに書き出したりできます。実際にはプレーンなテキストファイル形式は属性をサポートしないため、書式設定はコードを使って記述され、XPress Tagsフィルタにより翻訳されます。QuarkXPressの新バージョンで新しい文字属性と段落属性のオプションが追加されたため、新しい属性をサポートするXPress Tagコードも追加されています。

## タグ付きテキストの取り込み

XPress Tagコードが埋め込まれたプレーンテキストファイルを取り込む方法は次のとおりです。

- 1 **【ファイル】 > 【取り込み】** を選択します。
- 2 取り込みたいXPress Tagファイルを選択します。
- 3 QuarkXPressは、XPress Tagファイルのエンコーディングを検出しようとしています。別のエンコーディングを指定するには、**エンコーディング**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。
- 4 XPress Tagコードを実際の文字属性や段落設定に変換するには、**【取り込み】** ダイアログボックスの**XPress Tagsの解釈**チェックボックスをオンにします。**【取り込み】** ダイアログボックスの**XPress Tagsの解釈**チェックボックスをオンにせずにタグ付きテキストを取り込むと、QuarkXPressはXPress Tagコードを変換しません。この場合、コードはテキストキャラクターとしてそのまま取り込まれます。

## 別アプリケーションでタグ付きテキストを生成する

別アプリケーションで作成するテキストファイルにXPress Tag情報を含めるには、テキストの前に使用したいコードを追加します。テキストファイルの先頭には、バージョンコードとエンコーディング情報（例:<v8.00><e9>）を入力します。エンコーディングコードの詳細については、"**エンコーディング**"を参照してください。

プレーンなテキストファイル形式で生成したテキストは適切なエンコーディングを使用して保存してください。

## XPRESS Tagの一般情報

XPRESS Tagコードを入力するときには、以下の点に注意してください。

- XPRESS Tagコードは英語の大文字と小文字を区別します。
- 文字属性と段落属性を表すXPRESS Tagコードは、山括弧 (< >) で開始および終了します。たとえば、ボールドのテキストを示すXPRESS Tagコードは<B>です。
- 文字属性のコードを組み合わせるには、左の山括弧で開始し、次に指定したいコードを入力し、右の山括弧で完了します。たとえば、ボールドイタリックのテキストを示すXPRESS Tagコードは<BI>です。
- 文字属性のためのXPRESS Tagコードは、その属性を適用したい文字の直前に配置する必要があります。XPRESS Tagコードを使って文字属性を適用するとき、その属性は、それを取り消すか、そのスタイルシートを変更するコードを入力するまで効力を保ちます。適用対象の文字列の最終文字の直後に同じ属性を再指定することにより、その属性を取り消すことができます（あるいは、文字飾りについては、標準テキストのコードの<P>を入力することもできます）。
- 複数の値を指定できるXPRESS Tagコードコマンド（段落属性など）では、実際の値の代わりに\$を入力することができます。QuarkXPRESSが\$コードを検出すると、現在適用されているスタイルシートに指定された値を代入します（現在スタイルシートが適用されていない場合は、標準スタイルシートの値が使用されます）。たとえば、基本的には段落に現在適用されているスタイルシートの書式を使用したいが、行送りだけはスタイルシートに適用されている値の代わりに18ポイントを適用したいという場合を考えてみましょう。この場合のコードは、<\*p(\$,\$,\$,18,\$,\$,\$)>になります。
- XPRESS Tagコードとして指定する名前は、引用符記号 (") で開始および終了しなければなりません。たとえば、Palatinoフォントを指定する場合は、<f"Palatino">というコードを使用します。
- XPRESS Tagコードを使用してフォントを指定する場合、コードにフォント名の一部だけを入力することができます（たとえば、helvと入力することによりHelveticaフォントを指定できます）。QuarkXPRESSは、指定されているXPRESS Tagコードに従って取り込まれたテキストにフォントを適用するとき、**フォント**サブメニューから、フォント名の一部に一致した最初のフォントを適用します。
- 一部の機能（ルビ、縦組み中の文字回転、圏点など）は、QuarkXPRESSの特定の言語エディションでのみ利用できます。しかし、QuarkXPRESSのどの言語エディションを使用しているか、このような機能を使用したプロジェクトを開くことができ、またXPRESS Tagでこれらの機能を使用したテキストを取り込み／書き出しすることも可能です。

# 文字書式と段落書式

XPress Tagコードで文字飾りを指定するとき、<P>を使用することによりいつでも文字飾りを標準に設定できます。その他の文字飾り（ボールドの<B>など）を指定すると、それ以前にその文字飾りが指定されていなければ文字飾りが適用され、以前指定されていれば文字飾りが解除されます。たとえば、はじめて<B>を指定した場合は、それ以降のテキストにボールドの文字飾りが適用されます。しかし、再び<B>を入力すると、それ以降のテキストにはボールドが適用されなくなります。<\$>を入力すると、現在のスタイルシートに指定されている文字飾りに設定されます。現在スタイルシートが適用されていない場合は、標準スタイルシートが使用されます。

## 文字設定

- 標準：<P>
- ボールド：<B>
- イタリック：<I>
- アウトライン：<O>
- シャドウ：<S>
- アンダーライン：<U>
- ワードアンダーライン：<W>
- 取消線：</>
- 二重取消線：<R>
- オールキャップス：<K>
- スモールキャップス：<H>
- 上付き：<+>
- 下付き：<->（ハイフン）
- 肩付き：<V>
- フォント変更\*：<f"フォント名">
- フォントサイズ変更\*：<z###.##>（単位：ポイント）
- カラー変更\*：<c"カラー名">または<cC, cM, cY, cK, および cW>

- シェード変更\* : `<s###.>` (単位 : %)
- 文字の変形 (水平比率) \* : `<h###.>` (単位 : %)
- カーニング\* : `<k###.>` (単位 : 1/200 emスペース)
- トラッキング\* : `<t###.>` (単位 : 1/200 emスペース)
- 字送り † : トラッキングと同じタグですが、末尾にポイントでの値を入力します。
- ベースラインシフトの設定\* : `<b###.>` (単位 : ポイント)
- 文字の変形 (垂直比率) \* : `<y###.>` (単位 : %)
- 合字 : `<G1>` でオン、`<G0>` でオフ
- 不透過度\* : `<p###.>` (単位 : %)
- OpenType : `<o("xxxx")>`、"xxxx"にはOpenType®の機能コードが入ります
- 言語 : `<n##>` ("言語"参照)
- 文字揃え † : `<*An>`、*n* は文字揃えの種類を示します。`<AT>` = 仮想ボディ上辺/右辺、`<AO>` = 平均字面上/右、`<AC>` = 仮想ボディセンター、`<AM>` = 平均字面下/左、`<AB>` = 仮想ボディ下辺/左辺、`<AL>` = 欧文ベースライン †
- 半角幅文字を常に縦向きにする † (縦組みのストーリーのみに使用できる文字属性) : `<Ln>`。`<L0>` = 横向き、`<L1>` = 上向き、`<L$>` = スタイルシートの設定に戻す
- 圏点 † : `<Mn>`。*n* は圏点を示します。
- CJK (中国語・日本語・韓国語) 以外の文字に字送りを適用 † : `<Y1>` でオン、`<Y0>` でオフ。`<Y$>` で現在のスタイルシート設定を使用

\*これらの任意のコマンドの後ろに\$が付いていれば (例 : `<f$>`)、その属性は現在の文字スタイルシートに指定された値に設定されます。現在文字スタイルシートが適用されていない場合は、標準スタイルシートが使用されます (このリストの#は、数値を示します)。

†この機能はQuarkXPressの特定の言語エディションでのみ利用できます。しかし、QuarkXPressのどの言語エディションを使用しているか、この機能を使用したテキストを取り込み/書き出しすることができます。

## 言語

`<n##>` という文字タグを使って次の言語を適用することができます。

- なし : `<n254>`
- ブルガリア語 : `<n72>`
- カタロニア語 : `<n73>`
- 中国語 (簡体字) : `<n52>`
- 中国語 (繁体字) : `<n53>`
- クロアチア語 : `<n68>`
- チェコ語 : `<n56>`
- デンマーク語 : `<n9>`
- オランダ語 : `<n5>`

- 英語（インターナショナル） : <n2>
- 英語（米国） : <n0>
- エストニア語 : <n44>
- フィンランド語 : <n17>
- フランス語 : <n1>
- ドイツ語 : <n3>
- ドイツ語（Reformed） (<n70>
- ドイツ語（<Swiss Reformed） (<n69>
- ドイツ語（スイス系） (<n19>
- ギリシャ語 : <n20>
- ハンガリー語 : <n43>
- アイスランド語 : <n21>
- イタリア語 : <n4>
- 日本語 : <n14>
- 韓国語 : <n51>
- ラトビア語 : <n45>
- リトアニア語 : <n41>
- ノルウェー語（Bokmal） (<n12>
- ノルウェー語（Nynorsk） : <n80>
- ポーランド語 : <n42>
- ポルトガル語（ブラジル） : <n71>
- ポルトガル語（ヨーロッパ） : <n10>
- ルーマニア語 : <n39>
- ロシア語 : <n39>
- スロバキア語 : <n57>
- スロベニア語 : <n66>
- スペイン語 : <n8>
- スウェーデン語 : <n7>
- トルコ語 : <n24>
- ウクライナ語 : <n62>

### ルビ文字

ルビ文字機能では、ベーステキストに小さなルビ文字を使って注釈を付けられます。この機能はQuarkXPressの特定の言語エディションでのみ利用できます。しかし、QuarkXPressのどの言語エディションを使用しているかに関わらず、この機能を使用したテキストを取り込み/書き出しすることができます。

ルビ文字タグは次の形式を使用します。

<A(¥#68ベーステキスト¥#36<@><文字属性><¥#9ルビ文字¥#132,50,C,A,0,2,B,T)>

このタグの内容は以下のとおりです。

- <A()>にこのタグを入れます。
- /#68と/#36はそれぞれベーステキストの開始と終了を示します。
- <@><文字属性>ではルビ文字の書式を指定できます ("文字設定"参照)。
- ¥#nはルビ文字の開始を示し、nはルビ文字の文字数 (上の例では「9」文字) です。
- ¥#132はルビ文字の終了、¥#50はルビの配置コードの開始を示します。
- 50はベースフォントサイズに対するパーセンテージです。
- Cはルビ揃えです。ここでは、L = 左辺、C = センター、R = 右辺、J = ジャスティファイ、F = 強制割付、O = 1-2-1 (JIS) ルール、E = 1 ルビスペースを意味します。
- Aはベース揃えです。ここでは、A = なし、L = 左辺、C = センター、R = 右辺、J = ジャスティファイ、F = 強制割付、O = 1-2-1 (JIS) ルール、E = 均等割付を意味します。
- 0はルビの水平方向のオフセットです (単位: ポイント)。
- 2は張り出しルビです。ここでは、0 = なし、1 = ルビ文字1個まで、2 = ルビ文字1/2個まで、3 = ベース文字1個まで、4 = ベース文字1/2個まで、5 = 制限なしを意味します。
- Bはベーステキストに対するルビの配置を示します。A = 上、B = 下です。
- Tは端線上に自動揃えオプションです。T = オン、F = オフです。

### 縦組み中の文字回転

縦組み中の文字回転機能により、縦組みのストーリー内にグループ化して横方向に回転した文字を配置することができます。この機能はQuarkXPressの特定の言語エディションでのみ利用できます。しかし、QuarkXPressのどの言語エディションを使用しても、この機能を使用したテキストを取り込み/書き出しすることができます。

縦組み中の文字回転機能 (グループ文字) は次の形式を使用します。

<A(¥#72ABC¥#40<t-10h80)>

このタグの内容は以下のとおりです。

- <A()>にこのタグを入れます。
- /#72と/#40はそれぞれグループ文字の開始と終了を示します。
- <t-10h80>はトラッキングと文字の変形機能 ("文字設定") の使用を示します。

### フォントセット

フォントセット機能では、テキストに対して字種ごとに異なる種類のフォントを適用するフォントのグループを作成することができます。

スタイルシートの定義と同様、フォントセット定義はXPress Tagファイルに保存されます。たとえば、"フォントセット1"という名前のフォントセットを使用したテキストを書

き出すと、「フォントセット1」の定義はXPress Tagファイルの最初で以下のようなタグ形式に書き出されます。

@フォントセット

```
1[!HiraMinPro-W3;100;h100;GeoStdB;100;h100;Cobal;100;h100;HiraMinPro-W3;8999;h105;TimesRoman;100;h100]
```

テキスト内では、フォントセットのタグは以下のように表記されます。

```
<h105z10.89b-0.6f"HiraMinPro-W3",("フォントセット1",12)>
```

このタグの内容は以下のとおりです。

- h105 = 水平方向または垂直方向の文字の変形（["文字設定"](#)参照）。
- z10.8 = 現在のフォントサイズに対するパーセンテージ
- b-0.6 = ベースラインシフト（単位：ポイント）
- f"HiraMinPro-W3" = フォント
- ("フォントセット1", 12) = 適用されるフォントセットの名前と現在のフォントサイズ

➡ この機能はQuarkXPressの特定の言語エディションでのみ利用できます。しかし、QuarkXPressのどの言語エディションを使用しても、この機能を使用したテキストを取り込み/書き出しすることができます。

### OpenType属性

書式のオン/オフは、文字書式に使われる方法と同じです。すなわち、タグを再指定することにより、現在の属性ステータスのオン/オフが切り替わります。

以下の項目のうちアスタリスク（\*）が付いているものは、字形の属性です。字形属性を適用する形式は<DoO,F"zero",I0,f"ACaslonPro-Bold">0<oC>です。ここでは、DoO = タグを開く、F"zero" = 機能、I0 = 字形インデックス（I0 = 最初の字形）、f"ACaslonPro-Bold" = フォント、0 = ベース文字、oC = 終了タグを意味します。

### 基本セット

- 全てのスモールキャップス：a2sc
- Alternative Annotation Forms\*：nalt
- 分数\*：afrc
- 前後関係に依存する字形：calt
- 任意の合字：dlig
- 分母：dnom
- 分数：frac
- ハングル\*：hngl
- Historical Alternates\*：hist
- 横書き用仮名の使用†：hkna
- イタリック†：ital
- 標準の合字：liga

- 分子 : numr
- 序数 ordn
- 行頭記号\* : ornm
- プロポーショナルライニング : plin
- プロポーショナルオールドスタイル : pold
- Ruby Notation Forms † : ruby
- 科学用下付き字形 : sinf
- 装飾字形\* : salt
- スモールキャップス : smcp
- 下付き : subs
- 上付き : sups
- スワッシュ : swsh
- タイトル用字形 : titl
- 等幅ライニング : tlin
- 等幅オールドスタイル : told
- Slashed Zero\* : zero
- 縦書き用仮名の使用 † : vkna

\*これは字形属性です；上記参照。

†この機能は、東アジア機能をサポートするQuarkXPressの言語エディションでのみ適用されます。

### 代替字体

- エキスパート字形\* : expt
- 補助漢字\* : hojo
- JIS2004字体 † : jp04
- JIS78字体 † : jp78
- JIS83字体 † : jp83
- JIS90字体 † : jp90
- 国語審議会漢字\* : nick
- 簡体字体 † : simpl
- 旧字体 † : trad
- 旧字体（人名）\* : tnam

\*これは字形属性です；上記参照。

†この機能は、東アジア機能をサポートするQuarkXPressの言語エディションでのみ適用されます。



次段落との間隔、およびグリッド固定オフでテキストが設定されます。第1行インデントの位置に小数点のパーセンテージ値を使用することにより、1emスペースのパーセンテージとして段落の第1行インデントを指定することができます（例：60%には0.6を使用します）。グリッド固定の位置では、G = ベースライングリッドに固定する、g = ベースライングリッドに固定しないを意味します。また、括弧内の2つの値は、ページグリッドに固定（P）するか、ボックスグリッドに固定（B）するかと、文字の揃え方法（T = トップライン/右ライン、C = センターライン、S = ベースライン、B = ボトムライン/左ライン）を示します。

- H&J : `<*h"設定名">`. H&J(ハイフネーションとジャスティフィケーション) 設定は、H&Jを指定するタグ付きテキストを取り込む前にQuarkXPressプロジェクト内に存在していなければなりません。ユーザーがXPress TagでH&J設定を指定して、QuarkXPressがプロジェクトのH&Jリストにその設定を見つけ出せない場合、標準H&J設定が代用されます。スタイルシートとH&J設定の名前は、最長で63文字です。
- 段落罫線（前付き罫線）\*\* : `<*ra(##,#,"カラー名",##,##,##または##%)>`。括弧内の値は、幅、スタイル、"カラー名"、シェード、左からの距離、右からの距離、オフセットを意味します。段落罫線の太さとインデントはポイントで入力します。左インデント値の前に"T"と入力すると、テキストの第1行に基づいて段落罫線の長さが決まります。段落罫線のスタイルオプションでは、0がソリッド、1がドット、2がドット2、3がダッシュ・ドット、4が全てドット、5がダブル、6が細-太、7が太-細、8が細-太-細、9が太-細-太、10がトリプルを意味します。シェードはパーセント値です。段落罫線のオフセットはポイントまたはパーセンテージ(##%)で指定できます。たとえば、`<*ra(4,5,"Blue",100,T12,12,50%)>`により、前付き罫線、太さ4ポイント、ダブルスタイル、ブルー100%、左からの距離と右からの距離が12ポイント（テキスト1行目をベース）、オフセットが50%に指定されます。
- 段落罫線（後付き罫線）\*\* : `<*ra(##,#,"カラー名",##,##,##または##%)>`。括弧内の値は、幅、スタイル、"カラー名"、シェード、左からの距離、右からの距離、オフセットを意味します。段落罫線の太さとインデントはポイントで入力します。左インデント値の前に"T"と入力すると、テキストの第1行に基づいて段落罫線の長さが決まります。段落罫線のスタイルオプションでは、0がソリッド、1がドット、2がドット2、3がダッシュ・ドット、4が全てドット、5がダブル、6が細-太、7が太-細、8が細-太-細、9が太-細-太、10がトリプルを意味します。シェードはパーセント値です。段落罫線のオフセットはポイントまたはパーセンテージ(##%)で指定できます。たとえば、`<*rb(2,0,C,50,6,18,30%)>`により、後付き罫線、太さ2ポイント、ソリッドスタイル、シアン50%、左からの距離6ポイント、右からの距離18ポイント、オフセットが30%に指定されます。
- ドロップキャップス\*\* : `<*d(文字数,行数)>`
- 次段落との分割不可\*\* : `<*kn1>`または`<*kn0>1` = 次段落との分割不可、0 = 次段落との分割可
- 全行送るr\*\* : `<*ktA>`または`<*kt(##,##)>` A = 全行送る、## = 開始行（始点）、終了行（最後）。標準スタイルシートの設定に戻すには、`<*kt($)>`を入力します。
- ぶら下がり文字の設定 : `<*s"ぶら下がり文字セット名">`。レイアウトに、ここで指定されたぶら下がり文字セットが含まれない場合、ぶら下がり文字セットは一切適用されません。しかし、この名前前のぶら下がり文字セットを後で追加すると、そのぶら下がり文字セットがテキストに適用されます。
- 簡条書き記号スタイル : `<*bb"簡条書き記号スタイル名"(7.2,0,0)>`。レイアウトに、ここで指定された簡条書き記号スタイルが含まれない場合、簡条書き記号スタイル

は一切適用されません。括弧で囲まれたリストの最初の数字は、箇条書き記号とテキストの間の最少距離で、2番目の数字は、開始番号です。3番目の数字は、自動番号を新しく開始するかどうかを示すフラグです (0=false、1=true)。箇条書き記号スタイルの場合は、最後の値は関係ありません。

- 箇条書き自動番号スタイル : `<*bb"箇条書き自動番号スタイル名"(7.2,0,0)>`。レイアウトに、ここで指定された箇条書き自動番号スタイルが含まれない場合、箇条書き自動番号スタイルは一切適用されません。括弧で囲まれたリストの最初の数字は、箇条書き記号とテキストの間の最少距離で、2番目の数字は、開始番号です。3番目の数字は、自動番号を新しく開始するかどうかを示すフラグです (0=false、1=true)。
- アウトラインスタイル : `<*bo"アウトラインスタイル名"(7.2,0,0)>`。レイアウトに、ここで指定されたアウトラインスタイルが含まれない場合、アウトラインスタイルは一切適用されません。アウトラインスタイルの場合は、括弧で囲まれた値のリストは無視されます。括弧で囲まれたリストの最初の数字は、箇条書き記号とテキストの間の最少距離で、2番目の数字は、開始番号です。3番目の数字は、自動番号を新しく開始するかどうかを示すフラグです (0=false、1=true)。箇条書き記号スタイルの場合は、最後の値は関係ありません。
- インデントレベル : `<*l1>`。最下位レベルはl0 (レベル1) で、最上位レベルはl8 (レベル9) です。

\*\$が書式コードの全部または一部を置き換える場合 (たとえば<\*t\$>)、現在の段落スタイルシートが使われます。現在スタイルシートが適用されていない場合は、標準スタイルシートが使用されます。これら2つのコマンドで使われるすべての数値は、ポイント単位です。

\*\*\$により、現在のスタイルシート定義を使って全部または一部の書式コードを置き換えられます。あるいは、0を指定することにより段落罫線なしを指定できます (例 : <\*ra\$> と <\*ra0>)。

†この機能はQuarkXPressの特定の言語エディションでのみ利用できます。しかし、QuarkXPressのどの言語エディションを使用しているか、この機能を使用したテキストを取り込み/書き出しすることができます。

### その他の属性

このセクションでは、上記のカテゴリに入らない属性をリストします。

- 字形 : `<DoO,F"zero",l0,f"AcaslonPro-Bold">0<oC>`。ここでは、DoO = 開始タグ、F"zero" = 機能、l0 = 代替字形の索引、f"AcaslonPro-Bold" = フォント、0 = ベース文字、oC = 終了タグを意味します。
- ハイパーリンク : `<A(3,"HYPB",¥#002¥#000¥#000¥#000)[2]>`リンクされたテキスト`<A(3,"HYP¥","¥#nnn¥#xxx)[n]>`。ここでは、`<A(3,"HYPB",¥#002¥#000¥#000¥#000)[2]>`が開始タグです (これは変化しません)。`¥#nnn`はリンクの種類 (`¥#000` = URL、`¥#004` = アンカー、`¥#008` = ページ)、`¥#xxx`はこのプロジェクト内でのこのハイパーリンクの作成順を示します (`¥#001` = 最初に作成されたもの、`¥#002` = 2番目に作成されたもの、など)。
- トランスコーディングのシーケンス : `<EX>`Unicode値, 言語, レガシーコード値 `<EX>`。言語コードについては、"[言語](#)"を参照してください。

- エンコードされていない字形：<DO, gxxxx, f"フォント"P> <DC>。ここでは、DO = 開始タグ、g = 字形、f = フォント、P = スタイル (P、B、I、またはBI)、DC = 終了タグを示します。

### スタイルのオン/オフ

- 機能"a"をオンにする：<o("aaaa")>
- 機能"x"、"y"、および"z"をオンにする：<o("xxxx", "yyyy", "zzzz")>
- 機能"a"と"b"をオンにし、次に機能"c"をオンにして機能"b"をオフにする：<o("aaaa", "bbbb")>some<o("cccc", "bbbb")> text
- 機能"a"と"y"をオンにする：<o("xxxx", "aaaa", "xxxx", "yyyy")>

### スタイルシートの書式に戻す

- 機能"x"と"y"を、現在適用されている段落スタイルシートの文字属性に戻す：<o(\$ "xxxx", "yyyy")>
- 機能"x"と"a"を、現在適用されている文字スタイルシートの文字属性に戻す：<o(\$\$ "xxxx", "aaaa")>
- すべてのOpenType機能を、現在適用されている段落スタイルシートの文字属性に戻す：<o(\$)>
- すべてのOpenType機能を、現在適用されている文字スタイルシートの文字属性に戻す：<o(\$\$)>

# スタイルシート

XPress Tagを使用して、文字スタイルシートを適用することや、段落スタイルシートと文字スタイルシート間の関係を構築することができます。

## スタイルシートの定義

スタイルシート定義には、段落属性のみを含む場合、文字属性のみを含む場合、または段落と文字属性の両者を含む場合があります。

- デフォルトの文字属性を使った段落スタイルシートの定義：@スタイルシート名=[Sp"", ""] <段落と文字属性> (改行)。たとえば、  
@Paragraph1=[Sp"", ""]<\*L\*h"Standard"  
\*kn0\*kt0\*ra0\*rb0\*d0\*p(0,0,0,0,0,0,g(B,S))  
PBs100t0h100z14k0b0c"Red"f"Times-Roman">と指定します。
- 文字スタイルシートの定義：@スタイルシート名=<文字属性> (改行)。たとえば、  
@Char1=<Ps100t-3h100z10k0b0cK f"Palatino-Roman">と指定します。
- 文字属性を使った段落スタイルシートの定義：@スタイルシート名=[Sp"", "","文字スタイルシート名"]<段落属性> (改行)。たとえば、  
@Paragraph1=[Sp"", "Paragraph1", "Char1"]  
<\*L\*h"Standard"\*kn0\*kt0\*ra0\*rb0\*d0\*p(0,0,0,0,0,0,g(B,S))>と指定します。
- 別の段落スタイルシートをベースに段落スタイルシートを作成し、次のスタイルを適用：@スタイルシート名=[Sp"ベースの段落スタイルシート名","次の段落スタイルシート名","文字スタイルシート名"]<段落属性> (改行)。たとえば、  
@Paragraph2=[Sp"Paragraph1", "Paragraph3", "Char1"]<\*t(121,1,"1.227,1,"1")>と指定します。
- 別の文字スタイルシートをベースに文字スタイルシートを作成：@スタイルシート名=[St"", "","ベースの文字スタイルシート名"] <文字属性> (改行)。たとえば、  
@Char2=[St"", "","Char1"] <Pbf"ArialMT">と指定します。

## スタイルシートの適用

@記号は、スタイルシートの適用に使用します。文字スタイルシートを適用する際、@の前に"x"を付けることにより全文字属性をその文字スタイルシートのデフォルト属性に設定できます。これにより、既存の文字属性をすべて上書きします。たとえば、<x@\$>により、既存の文字属性を消去して標準文字スタイルシートを適用できます。

## 段落スタイルシートの適用

- 標準段落スタイルシートの適用：@\$:段落テキスト
- スタイル解除段落スタイルシートの適用：@:段落テキスト
- 定義済み段落スタイルシートの適用：@スタイルシート名:段落テキスト

標準スタイルシート（QuarkXPressプロジェクトにあらかじめ定義済みの属性を持つスタイルシート）を段落に適用するには、段落の先頭に「@\$:」コードを挿入します。

段落に特定のスタイルシートを指定するには、段落の先頭に「@スタイルシート名:」コードを挿入します。

段落に**スタイル解除**を指定するには、スタイルシートを解除したい最初の段落に「@:」コードを挿入します。

- ➡ XPress Tagを使用して段落にスタイルシートを適用すると、そのスタイルシートは、別のスタイルシートが適用されるか、@:コードにより**スタイル解除**が適用されるまで、その後の段落にも引き続き適用されます。

スタイルシートを適用済みの段落に含まれる文字に属性を適用することもできます（ローカルフォーマット）。こうした属性は、それを取り消すまで、あるいは別のスタイルシートを適用するまで効力を保ちます。

プロジェクトに既に含まれるスタイルシート名を使ってタグ付けされたテキストを取り込むと、QuarkXPressはそのプロジェクトの既存スタイルシートに指定された文字属性と段落属性を自動的に適用します。プロジェクトに存在しないスタイルシート名を使ってタグ付けされたテキストを取り込むと、QuarkXPressはそのスタイルシート名を**スタイルシート**パレットに追加します。新規スタイルシートがタグ付きテキストに定義されていなければ、QuarkXPressは**標準段落/文字**スタイルシートの属性を新規スタイルシートに適用して、その段落スタイルシートを**スタイルシート**パレットに追加します。

スタイルシート名には以下の文字を使用できません：": = @

## 文字スタイルシートの適用

- 標準文字スタイルシートの適用：<@\$>
- 段落の文字スタイルシートの適用：<@\$p>
- スタイル解除文字スタイルシートの適用：<@>
- 定義済み文字スタイルシートの適用：<@スタイルシート名>

## スタイルシート用の追加XPress Tag

文字スタイルシートと段落スタイルシートの関係を定義するための追加XPress Tagが用意されています。

- 適用された段落スタイルシートの文字属性に従って文字書式を設定：<\$>
- 現在適用されている文字スタイルシートの文字属性に従って文字書式を設定：<\$\$>
- 適用された段落スタイルシートの文字属性に従ってすべての文字書式を設定：<a\$>

- ➡ このコマンドは、文字スタイルシートを適用しません

## スタイルシート

- 適用された文字スタイルシートの文字属性に従ってすべての文字書式を設定 : `<a$$>`

# カラー

プロセスカラー以外のカラーが取り込み時に正確に解釈されるようにするためには、正確にカラーを定義する必要があります。こうしたカラーについては、スタイルシート定義と同じくXPress Tagファイルの先頭に定義が置かれます。

## カスタムカラーの定義

```
@colorname=[C]<"colorclass",colorspec>
```

解説：

colorname = カラーの名前

[C] = カスタムカラーを示します

```
colorspec = "libraryname",SまたはP,#,"colorsubclass"
###,###,###,###,###,###
```

SまたはP = "S"はスポットから、"P"はプロセスカラーを示します

スポットカラー ("S") の場合、これに続く数字は使用されるハーフトーンスクリーンの値を示します：# = { 1=Cyan, 2=Magenta, 3=Yellow, 4=Black }

たとえば、以下のように指定します：

```
@CMYK-M50Y100spotY=[C]<"CMYK",S,3,0,0.5,1,0>
```

libraryname = 色見本帳またはカラーのライブラリ名

colorsubclass = カラークラスと同じ。値には、"CMYK"、"LAB"、"Hexachrome"、"RGB"を含みます。このバックアップ用設定はライブラリが見つからないときに使用されます。

```
###,###,###,###,###,### = 数値カラー指定
```

## カスタムカラー定義の詳細

```
colorclass = {"CMYK", "RGB", "HSB", "LAB", "DIC", "MULTI-INK", "FOCALTONE",
"PANTONE®..." ("PANTONE® solid coated"など、Pantoneのオプションは14種類あります), "TOYO", "TRUMATCH", "Web Safe Colors", "Web Named Colors"}
```

colorclass = "RGB"、"HSB"、"LAB"、"Web Safe Colors"または"Web Named Colors"の場合、

```
colorspec = SまたはP, #, ###,###,###,###
```

## カラー

例：@Red=[C]<"RGB",P,1,0,0>

colorclass = "CMYK"の場合、

colorspec = SまたはP, #, #.##, #.##, #.##, #.##

例：@CMYK-M50Y100spotY=[C]<"CMYK",S,3,0,0.5,1,0>

colorclass = "DIC"、"FOCALTONE"、"PANTONE®..."、"TOYO"、"TRUMATCH"の場合、

colorspec = "libraryname", Sまたは  
P, #, "colorsubclass", #.##, #.##, #.##, #.##, #.##

例1：@DIC 399p spotB=[C]<"DIC", "DIC 399p", S, 4, "CMYK", 0.55, 0.14, 0.47, 0>

例2：@PANTONE 259 HexC=[C]<"PANTONE® solid in hexachrome®  
coated", "PANTONE 259 HC", S, 4, "Hexachrome", 0.4, 1, 0, 0.25, 0, 0>

colorclass = "MULTI-INK"の場合、

colorspec = "colorname", "colorclass", IまたはC, #.##, #

解説：

IまたはC = カラーはインクエイリアスまたはカスタムカラーです。

I = インクエイリアス

C = カスタムインク

#.## = マルチインクパーセンテージ

# = インクインデックス。この値はインクエイリアスのコンポーネントでのみ書かれます。

例：@Mink-M70Lab20=[C]<"MULTI-INK", "Process  
Magenta", "CMYK", I, 0.7, 1 "LAB-L50A45B-75spotB", "LAB", C, 0.2>

### カスタムカラーの適用

カラーの定義が済んだら、標準のカラータグを使ってそれを適用できます。たとえば、<c"Red">または<c"Mink-M70Lab20">と指定します。

# 特殊キャラクタ

XPress Tagでは、文字のエンコーディングを指定したり、任意ハイフンや分離禁止スペースなどの特殊キャラクタを挿入および操作したりすることができます。

## エンコーディング

[テキスト保存] コマンド（[ファイル] メニュー）を使って作成するXPress Tagファイルの先頭には、以下に挙げる3種類の拡張文字セットインジケータの1つが自動配置されます。

- Unicode (UTF-16) : <e8>
- Unicode (UTF-8) : <e9>
- Mac Roman (x-mac-roman) : <e0>
- Windows Latin (windows-1252) : <e1>
- Western (iso-8859-1) : <e2>
- Japanese Win (windows-932-2000) : <e3>
- Japanese Mac (x-mac-japanese) : <e21>
- Korean Windows (MS codePage 949) : <e19>
- Korean Mac (KSC5601) : <e20>
- 繁体中文 (BIG5) : <e6>
- 簡体中文 (GB2312) : <e7>

## エスケープキャラクタ

通常XPress Tagがコードの一部として認識する特定のキャラクタをテキストとして使うには、以下のキャラクタを使用してください。

- @: <¥@>
- <: <¥<>
- ¥: <¥¥>

### その他の特殊キャラクタ

特殊キャラクタには独自のXPress Tagコードを持つものもあります。こうしたキャラクタについては、以下のコードを使用してください。

- 改行（ソフトリターン）：`<¥n>`
- 任意改行：`<¥d>`
- ハイフン\*：`<¥>`
- インデント位置：`<¥i>`
- 右インデントタブ：`<¥t>`
- 標準スペース\*：`<¥s>`
- 半角スペース\*：`<¥e>`
- 句点スペース\*：`<¥p>`
- フレックススペース\*：`<¥f>`
- 全角ダッシュ\*：`<¥_>`
- 半角ダッシュ\*：`<¥a>`
- 任意ハイフン：`<¥h>`
- 前ボックスのページ番号：`<¥2>`
- 現在のボックスのページ番号：`<¥3>`
- 次ボックスのページ番号：`<¥4>`
- 新コラム：`<¥c>`
- 新ボックス：`<¥b>`
- 全角スペース\*：`<¥m>`
- 1/3全角スペース\*：`<¥#>`
- 1/4全角スペース\*：`<¥$>`
- 1/6全角スペース\*：`<¥^>`
- 数字スペース\*：`<¥8>`
- 極細スペース\*：`<¥{>`
- 細いスペース\*：`<¥[>`
- Word joiner\*：`<¥j>`
- 全角スペース\*：`<¥o>`
- 条件付きスタイルマーカー：`<¥r>`

\*このグループに含まれる任意のコマンドの前に!を置くことにより、そのスペースまたはハイフンを分割禁止にできます（例：`<¥!m>`）。

### ASCIIコード

ワードプロセッサアプリケーションの中には、特殊キャラクタ用のXPress Tagを作成するために10進法のASCIIコードの使用を要求するものがあります。こうしたキャラクタ

用のXPress Tagコードは<¥#10進法値>です。#記号はコードの一部です。XPress Tagコードは10進法のASCIIコードでは3桁にしなければなりません。4桁のASCIIコードを入力するときには、先頭のゼロを入力しないでください。以下のリストは、いくつかの一般的なキャラクタ用のASCII 10進法コードを定義します。

- あるキャラクタ用の10進法のASCIIコード\* : <¥#10進法値>
- 新段落（ハードリターン） : <¥#13>
- タブ : <¥#9>
- 半角ダッシュ : <¥#208>
- 全角ダッシュ : <¥#209>
- 開始（開き）の引用符 : <¥#210>
- 終了（閉じ）の引用符 : <¥#211>
- 開始（開き）の一重引用符 : <¥#212>
- 終了（閉じ）の一重引用符（アポストロフィ） : <¥#213>

\*コマンドの前に!を置くことにより、そのキャラクタを分割禁止にできます。

# 索引

QuarkXPressの索引タグをXPress Tag形式で取り込みおよび書き出しすることができます。ワードプロセッサアプリケーションを使ってユーザーがテキストにタグを付け、それをQuarkXPressに取り込んでレイアウトに使用することがあります。あるいは、QuarkXPressから索引タグが付いたテキストを書き出して編集する場合もあるでしょう。

## 索引用のテキストをマーキングする

索引用のXPress Tagでは、テキスト挿入位置に索引マーカを挿入したり、索引作成の対象となるテキスト範囲を指定したりすることができます。

- 挿入位置に索引マーカを挿入：`<XI,タグ情報>`
- 索引対象とするテキスト範囲の開始位置を指定：`<XO>`
- 索引対象とするテキスト範囲の終了位置を指定：`<XC,タグ情報>`

## 索引タグ情報の指定

索引タグには、見出し語レベル、スタイル、範囲に関する情報が含まれます。

- 第1レベル見出し語："第1レベル見出し語","",読み,スタイル情報,範囲,追加情報,"クロス参照のテキスト"。例：`<XO>20th Century<XC,"20th Century",,"", "Twentieth Century", "Index Text 1",6,1,"Modern Age">`
- 第2レベル見出し語："第1レベル見出し語","第2レベル見出し語","",読み,スタイル情報,範囲,追加情報,"クロス参照のテキスト"。例：`<XO>Humanities<XC,"20th Century", "Humanities", "", "", "Index Text 2",6,1,"Arts">`
- 第3レベル見出し語："第1レベル見出し語","第2レベル見出し語","第3レベル見出し語", "",読み,スタイル情報,範囲,追加情報,"クロス参照のテキスト"。例：`<XO>Literature<XC,"20th Century", "Humanities", "Literature", "", "", "Index Text 3",6,1,"Books">`
- 第4レベル見出し語："第1レベル見出し語","第2レベル見出し語","第3レベル見出し語","第4レベル見出し語",読み,スタイル情報,範囲,追加情報,"クロス参照のテキスト"。例：`<XO>English<XC,"20th Century", "Humanities", "Literature", "English", "", "Index Text 4",6,1,"Great Britain">`
- スタイル情報："スタイルシート名"または見出し語のスタイル用に""

- 範囲：0, 1, 2, 3, 4, 5, または6 (選択範囲の先頭 = 0, テキスト選択範囲 = 1, 指定スタイルまで = 2, 段落数を指定 = 3, 指定の末尾まで = 4, ページ番号なし = 5, クロス参照 = コード)
- 読み："読みテキスト"
- 選択範囲の先頭：0
- テキスト選択範囲：1
- 指定スタイルまで：スタイルシート名
- 段落数を指定：段落の数
- ページ番号なし：0
- 指定の末尾まで：0, 1 (ストーリー = 0, ドキュメント = 1)
- ページ番号なし：0
- クロス参照：0, 1, 2 (参照 = 0, 参照 (追加) = 1, 以下を参照 = 2)

## 法律上の注記

©2016 Quark Software Inc. and its licensors. All rights reserved.

次の米国特許によって保護されています。5,541,991、5,907,704、6,005,560、6,052,514、6,081,262、6,633,666 B2、6,947,959 B1、6,940,518 B2、7,116,843、7,463,793およびその他の出願中の特許。

Quark、Quarkロゴ、QuarkXPress、QuarkCopyDeskは、Quark Software Inc.とQuark関連会社の米国およびその他各国における商標または登録商標です。その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。